イスラームの英雄

第1巻

ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブ

アッラーの獅子、殉教者たちの長 — クルアーンと真正なハディースに基づいて



Hj Che Alim Hj Che Haron
AK (Kelantan)
quranscience.my

© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY
この電子書籍はムスリムのための無料版です — 販売禁止。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

イスラームの英雄

第 1 巻

ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブ

アッラーの獅子、殉教者たちの長 — クルアーンと真正なハディースに基づいて

مِّنَ ٱلْمُؤْمِنِينَ رِجَالٌ صَدَقُوا۟ مَا عَٰهَدُوا۟ ٱللَّهَ عَلَيْهِ ۖ فَمِنْهُم مَّن قَضَىٰ نَحْبَهُۥ وَمِنْهُم مَّن يَنتَظِرُ ۖ وَمَا بَدَّلُوا۟ تَبْدِيلًا ﴿٢٣﴾

「信者の中には，アッラーと結んだ約束に忠実であった人びとが（多く）いたのである。或る者はその誓いを果し，また或る者は（なお）待っている。かれらは少しも（その信念を）変えなかった。」

部族連合章 33:23

HJ CHE ALIM HJ CHE HARON

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売禁止。

謝辞

信仰者の中から殉教者を選び、彼らを主の御許で糧を受けて生きる者とされたアッラーに讃えあれ。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、その家族と教友たち、とりわけその叔父ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブ رضي الله عنه に祝福と平安あれ。

この電子書籍を、最愛の妻

ザハラ・モハマド・ラティフ；

愛する子どもたち、

ムハンマド・ハフィズ、ヌール・ハズワニ、アブドゥル・ハキム、ヌール・ヒダヤ、ノル・アキラ、ノル・アティカ；

そして義理の子どもたち、

ファジラ、マレク、ハニン、ファイリザル、フィルワンに捧げます。

『イスラームの英雄』第 1 巻は、ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブ رضي الله عنه の生涯を語ります。アッラーの使徒 ﷺ の乳兄弟であり叔父、マッカでの守り手、最初の旗の担い手、バドルの英雄、そしてウフドにおける殉教者たちの長です。この知識が「役に立つ知識（イルムン・ユンタファウ・ビヒ）」となりますように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この電子書籍の表紙について

この電子書籍の表紙には、人間も動物も描かれていません。描かれているのは夕暮れの*ウフド山*です。深まりゆく青い空と、地平線の金色の光が見えます。

絵の中央には、小さな丘の麓に*石垣に囲まれた墓地*があります。これは、ハムザ رضى الله عنه と殉教者たちが葬られたウフド殉教者墓地を表しており、弓兵の丘のすぐ近くにあります。

手前の大きな岩の上には、*一振りの剣*と*白い布*が置かれています。剣は「アッラーの獅子」の勇気を、白い布は体全体を覆うには足りなかったハムザの経帷子を思い起こさせます。殉教者たちの質素さと犠牲の象徴です。

下部の*紺色の帯*は、*細い金色の線*に縁取られ、著者名が記される場所です。

目次

ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブ — *はじめに*

1. ハムザとは誰か — *『サヒーフ・ブハーリー』5100*

2. クライシュ族の狩人、英雄 — *スィーラの書*

3. ハムザが入信した日 — *イブン・イスハークの伝承*

4. 入信がもたらしたもの — *スィーラの書；『サヒーフ・ブハーリー』3684*

5. 最初の旗：サイフ・アル＝バフル遠征 — *イブン・サアド；表*

6. バドルの一騎打ち — *巡礼章 22:19；『サヒーフ・ブハーリー』3969*

7. アリーのラクダの話 — *『サヒーフ・ブハーリー』3091*

8. ウフドのアッラーの獅子 — *イムラーン家章 3:140*

9. ワフシーの槍 — *『サヒーフ・ブハーリー』4072*

10. ヒンドとハムザの遺体 — *『サヒーフ・ブハーリー』4043、3825*

11. アッラーの使徒ﷺの涙 — *『スナン・イブン・マージャ』1591；蜜蜂章 16:126*

12. 殉教者たちの長 — *イムラーン家章 3:169；ハーキム『アル＝ムスタドラク』*

13. ワフシー、悔い改め、そしてムサイリマ — *集団章 39:53；『サヒーフ・ブハーリー』4072*

14. ウフドにあるハムザの墓 — *『サヒーフ・ムスリム』975；地理*

15. ハムザの人柄 — *部族連合章 33:23；『サヒーフ・ブハーリー』2805*

16. ハムザの物語の典拠 — *表*

17. ハムザの物語の人物 — *表*

18. ハムザの物語の場所 — *表*

19. ハムザの生涯の年表 — *表*

20. ハムザについてよくある質問 — *12 の質問*

21. 教訓と結び

参考文献

支援と寄付

色の見方：緑の枠 = クルアーンの節；金色の枠 = ハディース；茶色の枠 = スィーラの注（スィーラ書の伝承）；青い表 = 比較。青い下線の伝承者名をクリックすると、sunnah.com の伝承者のページが開く。

ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブ

イスラームの歴史には、闘いの物語が語られるたびに深い敬意をもって口にされる名前があります。その最も早く、最も偉大な一人が***ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブ*** رضى الله عنه です。アッラーの使徒 ﷺ の叔父であり乳兄弟、そして***「アッラーの獅子」***と呼ばれた教友です。

ハムザは戦場の英雄であっただけではありません。クライシュ族の尊敬される人物であり、力強い狩人であり、マッカの最も苦しい日々にアッラーの使徒 ﷺ を守った人でした。彼の入信はクライシュ族を揺るがしました。マディーナでは最初の旗を担い、バドルでは一騎打ちに進み出て、ウフドで殉教しました。アッラーの使徒 ﷺ は、それまで誰も見たことがないほど彼の死を悲しまれました。

この電子書籍は***『イスラームの英雄』***シリーズの第 1 巻です。ハムザ رضى الله عنه の物語を、まずクルアーンと真正なハディースから、次に信頼できるスィーラ（預言者伝）の書から集めています。すべての伝承に出典を示します。真正なものは真正として、有名でも伝承経路が弱い話はそのことを正直に説明し、読者が両者を見分けられるようにしています。

ハムザの物語は人間の物語でもあります。信仰へと変わった怒り、アッラーに頭を垂れた力、叔父を失った預言者の悲しみ、そして彼を殺した者にさえ開かれていた悔い改めの扉です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハムザとは誰か

正式な名前は*ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブ・ブン・ハーシム・ブン・アブドゥマナーフ*、クライシュ族ハーシム家の人です。アッラーの使徒 ﷺ の祖父アブドゥルムッタリブの息子であり、したがって預言者 ﷺ の父方の叔父にあたります。クンヤ（呼び名）は*アブー・ウマーラ*で、アブー・ヤアラーとも伝えられます。

母は、ズフラ家の*ハーラ・ビント・ウハイブ*です。ハーラは、アッラーの使徒 ﷺ の母アーミナ・ビント・ワフブのいとこでした。つまりハムザは、父方からも母方からもアッラーの使徒 ﷺ と血縁があったのです。

スィーラの書によれば、ハムザはアッラーの使徒 ﷺ より*約 2 歳年上*で、4 歳年上とする説もあります。年齢が近かったため、二人はマッカで叔父と甥というより、同年代の友のように育ちました。

乳兄弟

さらに特別な三つ目の絆が*授乳*です。ハムザもアッラーの使徒 ﷺ も、アブー・ラハブの解放奴隷である*スワイバ*という同じ女性に乳を与えられました。そのため、アッラーの使徒 ﷺ はハムザを乳兄弟と呼ばれました。その根拠は次のハディースです。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 5100 番

حَدَّثَنَا مُسَدَّدٌ، حَدَّثَنَا يَحْيَى، عَنْ شُعْبَةَ، عَنْ قَتَادَةَ، عَنْ جَابِرِ بْنِ زَيْدٍ، عَنِ ابْنِ عَبَّاسٍ، قَالَ قِيلَ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم أَلاَ تَزَوَّجُ ابْنَةَ حَمْزَةَ قَالَ " إِنَّهَا ابْنَةُ أَخِي مِنَ الرَّضَاعَةِ ". وَقَالَ بِشْرُ بْنُ عُمَرَ حَدَّثَنَا شُعْبَةُ سَمِعْتُ قَتَادَةَ سَمِعْتُ جَابِرَ بْنَ زَيْدٍ مِثْلَهُ.

訳：

イブン・アッバース رضى الله عنهما は言いました。預言者 ﷺ に「ハムザの娘と結婚なさらないのですか」と言われると、彼はこう言われました。*「彼女は私の乳兄弟の娘であ*

る。」 ビシュル・ブン・ウマルは言いました。シュウバが私たちに伝えました。私はカターダから聞き、カターダはジャービル・ブン・ザイドから同じことを聞きました。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムサッダド ← ヤフヤー・ブン・サイード・アル＝カッターン ← シュウバ ← カターダ ← ジャービル・ブン・ザイド ← イブン・アッバース رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』婚姻の書、ハディース第 5100 番。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

*典拠：*https://sunnah.com/bukhari:5100

このハディースは、シャリーア（イスラーム法）が授乳をいかに重く見ているかを示しています。ハムザの娘は、血縁では預言者 ﷺ のいとこであり、授乳では姪にあたりました。そのため、彼は彼女と結婚できませんでした。***血縁によって禁じられるものは、授乳によっても禁じられる***からです。

スィーラの注：ハムザの称号とクンヤ

ハムザの最もよく知られた称号は ***「アサドゥッラー・ワ・アサドゥ・ラスーリヒ」***、すなわち「アッラーの獅子、その使徒の獅子」です。これはハーキムやタバラーニーが伝えるいくつかの伝承に見られます。学者たちはその伝承経路について議論していますが、この称号はスィーラの書や教友の伝記で広く受け入れられています。

二つ目の称号は ***「サイイドゥ・アッ＝シュハダー」***、すなわち「殉教者たちの長」です。これについては第 12 章で述べます。

参照：

イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』（ハムザの伝記）；イブン・ハジャル『教友識別の書（アル＝イサーバ）』；イブン・アブドゥルバッル『アル＝イスティーアーブ』。

教訓

アッラーの使徒 ﷺ は独りで育ったのではありません。アッラーは彼の周りに、のちにイスラームの呼びかけを守ることになる人々を置かれました。ハムザはその一人でした。同じ年頃で、同じ女性の乳を飲み、同じ家族の出です。子どもの頃に結ばれた絆は、ついには血の絆より強い信仰の絆となりました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クライシュ族の狩人、英雄

イスラーム以前、ハムザはマッカで***力強く、勇敢で、尊敬される***人物として知られていました。彼は弓を携えて砂漠で狩りをするのを好みました。スィーラの書は彼の習慣を伝えています。狩りから戻ると、まっすぐ家には帰らず、まずカアバを巡回し、それからその周りにいるクライシュ族の集まりに立ち寄って挨拶したというのです。

この習慣は、彼がクライシュ族の中でどのような地位にあったかを示しています。彼は普通の人ではなく、巡礼者に水を与えた長アブドゥルムッタリブの息子でした。その言葉は聞き入れられ、その怒りは恐れられました。

スィーラの注：ハムザと、預言者ﷺとハディージャの結婚

イブン・イスハークの伝えるところでは、ハディージャ・ビント・フワイリド رضى الله عنها がアッラーの使徒 ﷺ との結婚を望んでいることを伝えると、彼はそれを叔父たちに話しました。すると***ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブ***が彼と共にフワイリド・ブン・アサドのもとへ行き、ハディージャへの求婚をしました。

別の伝承では、アブー・ターリブが結婚の説教をしたとされます。両者は合わせて理解できます。ハムザがアッラーの使徒 ﷺ に付き添い、一族の長であるアブー・ターリブがその席で話したのです。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』預言者 ﷺ とハディージャの結婚の章。

ジャーヒリーヤ（無明時代）のハムザは、まだ甥の呼びかけを信じてはいませんでした。それでも、アブー・ラハブやアブー・ジャフルのようにアッラーの使徒 ﷺ を苦しめる敵としては知られていません。スィーラの書は彼を、一族の名誉を守り、不正を見るのを嫌う、度量の大きな人物として描いています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

教訓

アッラーは、ご自分の宗教を守る者を、力と地位のある人々の中から選ばれます。イスラーム以前にハムザが持っていた資質、すなわち勇気、力、名誉心は、入信によって捨てられたのではなく、正しい道へと向けられました。アッラーの使徒 ﷺ は、人々は鉱脈のようであり、***ジャーヒリーヤにおいて最も優れた者は、宗教を理解すればイスラームにおいても最も優れた者である***と言われました（『サヒーフ・ブハーリー』3493）。

ハムザが入信した日

ハムザは***預言者となって6年目***（西暦 616 年頃）に入信しました。当時ムスリムはまだ少なく、アッラーの使徒 ﷺ はクライシュ族の指導者たちからしばしば迫害を受けていました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：アブー・ジャフルの頭に振り下ろされた弓

イブン・イスハークの伝えるところでは、ある日アブー・ジャフルがサファーの丘でアッラーの使徒 ﷺ のそばを通り、彼をののしり、ひどい言葉で傷つけました。しかしアッラーの使徒 ﷺ は言い返されませんでした。アブドゥッラー・ブン・ジュドアーンの女奴隷が、家の中でそのすべてを聞いていました。

まもなくハムザが、弓を肩に掛けて狩りから戻ってきました。女奴隷は彼に言いました。「アブー・ウマーラさま、つい先ほどあなたの甥ムハンマドがアブル・ハカム・ブン・ヒシャームからどんな目に遭ったか、ご覧になっていたら！」そして起こったことを語りました。

ハムザは激しく怒りました。どこにも立ち寄らず聖モスクへ向かい、仲間と座っているアブー・ジャフルを見つけました。ハムザは弓でアブー・ジャフルの頭を打ってひどい傷を負わせ、こう言いました。***「私が彼の宗教に従い、彼の言うことを言っているというのに、お前は彼をののしるのか。できるものなら私にやり返してみよ！」***

マフズーム家の男たちがアブー・ジャフルを守ろうと立ち上がりました。しかしアブー・ジャフルは言いました。「アブー・ウマーラを放っておけ。アッラーにかけて、私は彼の甥をひどくののしったのだ。」ハムザはイスラームに留まり、クライシュ族はアッラーの使徒 ﷺ に強い守り手ができたことを知りました。

伝承の位置づけ： イブン・イスハークはこの話をアスラム族の名の知れない男から伝えているため、伝承経路は完全にはつながっていません。真正なハディースの等級には達しませんが、話はよく知られており、ハムザ入信の大まかな姿としてスィーラの学者たちに受け入れられています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』ハムザの入信の章；ハーキム『アル＝ムスタドラク』；ムバーラクプーリー『封印された蜜（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』。

スィーラの書はまた、この出来事の後にハムザが迷いを覚えたことも伝えています。アブー・ジャフルへの言葉は怒りの中で口から出たものであり、一族の宗教を急いで捨ててしまったのではないかと案じたのです。彼はアッラーに真理を示してくだ

さるよう祈り、それからアッラーの使徒 ﷺ のもとへ行きました。使徒 ﷺ は彼を諭し、イスラームを説明されました。ついに彼の心は落ち着き、確信をもって信仰を表明しました。

この部分は大切です。ハムザの入信は、甥を守るための一時の怒りにすぎなかったのではありません。怒りは***入り口***でしたが、彼をイスラームに留めたのは、考え、耳を傾けた後に得た***確信***でした。

教訓

アッラーの使徒 ﷺ はアブー・ジャフルの侮辱に耐え、アッラーは思いがけないところから助けを送られました。アッラーは時に、女奴隷の一言のような小さな出来事で人の心を開かれますが、その影響は歴史を変えます。教訓は明らかです。熱意や感情は始まりにはなりえますが、揺るがない信仰には知識と確信が必要なのです。

入信がもたらしたもの

ハムザの入信は、マッカでの呼びかけに大きな影響を与えました。イブン・イスハークは言います。ハムザが入信すると、***クライシュ族はアッラーの使徒 ﷺ が強くなり、守られていることを悟り***、彼への迫害の一部を控えるようになった、と。

そこでクライシュ族は、脅しから取引へと手法を変えました。イブン・イスハークによれば、ハムザが入信し教友が増えた後、ウトバ・ブン・ラビーアがやって来て、呼びかけをやめるならば財産、地位、王権を与えようとアッラーの使徒 ﷺ に申し出ました。使徒 ﷺ は解説された章（フッスィラ章）の冒頭を朗誦して答えられました。

まもなく***ウマル・ブン・アル＝ハッターブ*** رضى الله عنه も入信しました。マッカで最も恐れられた二人の男が、アッラーの使徒 ﷺ の側に立ったのです。アブドゥッラー・ブン・マスウード رضى الله عنه は言いました。***「ウマルが入信して以来、私たちはずっと誇り高くあった」***（『サヒーフ・ブハーリー』3684）。その誇りはハムザから始まり、ウマルによって強められました。

アブー・ターリブの谷でハーシム家と共に

クライシュ族がハーシム家とムッタリブ家をアブー・ターリブの谷に約3年間封じ込めたとき、ハムザもアッラーの使徒 ﷺ と共にそこにいました。同じ飢えと苦しみを味わい、甥を見捨てませんでした。

ヒジュラ（移住）とザイド・ブン・ハーリサとの兄弟の契り

ハムザはアッラーの使徒 ﷺ より先にマディーナへ移住しました。マディーナで預言者 ﷺ がムハージルーン（移住者）とアンサール（援助者）を、またムハージルーン同士を兄弟として結ばれたとき、イブン・イスハークによれば、***ハムザは預言者 ﷺ の養子ザイド・ブン・ハーリサと兄弟とされました。***

スィーラの注：ハムザとザイドの兄弟の契りの根拠

この兄弟の契りは真正なハディースで確かめられます。補いのウムラ（ヒジュラ暦 7 年）の後、ハムザの娘が「おじさま！おじさま！」と呼びながら、マッカを出る預言者 ﷺ の一行の後を追いました。アリー、ジャアファル、ザイドは、誰が彼女を引き取るかで言い争いました。

ザイドは ***「彼女は私の兄弟の娘だ」*** と言いました。ザイドは、アッラーの使徒 ﷺ が結ばれた兄弟の契りによって、ハムザを兄弟と呼んだのです。最後に預言者 ﷺ は、ジャアファルの妻である彼女の母方のおばに娘を託し、「母方のおばは母と同じ立場である」と言われました。

参照：

『サヒーフ・ブハーリー』4251；『サヒーフ・ブハーリー』2699；イブン・ヒシャーム、ムハージルーンとアンサールの兄弟の契りの章。

教訓

強い信仰者は共同体全体に影響を与えます。ハムザの入信は私事ではなく、マッカの力の均衡を変えました。アッラーから力、地位、影響力を授かった者は、それを真理と弱い人々を守るために用いるべきです。

最初の旗：サイフ・アル＝バフル遠征

ヒジュラから数か月後、アッラーの使徒 ﷺ は、海岸沿いの道をシャームへ向かうクライシュ族の隊商を見張るため、小さな部隊を送り始められました。*イブン・サアドとワーキディー*によれば、アッラーの使徒 ﷺ がマディーナで結ばれた最初の旗は、*ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブ*に与えられました。

項目	内容
時期	ヒジュラ暦 1 年ラマダーン月、ヒジュラから約 7 か月後
指揮官	ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブ رضى الله عنه
旗	白い旗。アブー・マルサド・カンナーズ・ブン・アル＝フサイン・アル＝ガナウィーが担った
人数	約 30 人、全員がムハージルーン
目的	シャームから戻るクライシュ族の隊商を阻むこと
クライシュ族側	約 300 騎を率いるアブー・ジャフル・ブン・ヒシャーム
場所	サイフ・アル＝バフル（紅海沿岸）、イースの地域
結果	双方の同盟者マジュディー・ブン・アムル・アル＝ジュハニーが仲裁し、戦わずに別れた

戦闘はありませんでしたが、この遠征には大きな意味がありました。ムスリムが初めて旗のもとに組織された部隊として出陣したのです。その旗を持っていたのはハムザでした。数年前、アブー・ジャフルの前で独りアッラーの使徒 ﷺ を守った人です。今や彼は再びアブー・ジャフルと向き合いましたが、それは一個人としてではなく、ムスリム部隊の指揮官としてでした。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：最初の旗はどちらか

スィーラの学者たちの意見は分かれています。イブン・サアドとワーキディーは、ヒジュラ暦 1 年ラマダーン月のハムザの旗を最初とし、続いてシャウワール月のウバイダ・ブン・アル＝ハーリスの旗を挙げます。イブン・イスハークは、ウバイダの旗が先だったと言う人々もいたと述べています。

この違いは小さく、物語の核心には影響しません。二人とも最初期にムスリムの部隊を率いた人であり、二人とものちにバドルで一騎打ちに進み出ました。

参照：

イブン・サアド『大列伝』（ハムザの遠征）；イブン・ヒシャーム『預言者伝』。

教訓

ムスリムの部隊は、血を流すためだけに出陣したのではありません。マジュディー・ブン・アムルが仲裁すると、ハムザはそれを受け入れ、戦わずに引き返しました。ハムザの力と勇気には、規律と約束の尊重が伴っていました。これこそイスラームの英雄のしるしです。必要なときには勇敢であり、和平への道があるときには自制するのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

バドルの一騎打ち

ヒジュラ暦 2 年ラマダーン月 17 日、約 313 人のムスリム軍が、バドルで約 1000 人のクライシュ族の軍と向き合いました。戦いが始まる前に、クライシュ族の三人の指導者が進み出ました。*ウトバ・ブン・ラビーア*、その弟*シャイバ・ブン・ラビーア*、その息子*アル＝クリード・ブン・ウトバ*です。彼らはムスリムに一対一の戦い、すなわち*一騎打ち（ムバーラザ）*を挑みました。

アンサールの若者三人がこの挑戦に応じて出ていきました。しかしウトバは言いました。「お前たちに用はない。我々の一族の中から、我々と同等の者を求めているのだ。」するとアッラーの使徒 ﷺ は命じられました。「立て、ウバイダ・ブン・アル＝ハーリスよ！立て、ハムザよ！立て、アリーよ！」

イブン・イスハークの伝承によれば、*ハムザはシャイバと、アリーはアル＝クリードと、ウバイダはウトバと*戦いました。ハムザとアリーはすぐに相手を倒しました。ウバイダとウトバは互いに傷を負わせたので、ハムザとアリーがウトバにとどめを刺し、重傷のウバイダを隊列へ運び戻しました。ウバイダはのちにその傷がもとで殉教しました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

ハディース：アリーが語る一騎打ち

アリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه は言いました。ウトバ・ブン・ラビーアが進み出て、その息子と弟が後に続き、「誰が戦うか」と呼ばわった。アンサールの若者たちが応じた。彼が「お前たちは誰だ」と尋ねると、彼らは名乗った。彼は「お前たちに用はない。我々はいとこたちを求めているのだ」と言った。アッラーの使徒 ﷺ は「立て、ハムザよ。立て、アリーよ。立て、ウバイダ・ブン・アル＝ハーリスよ」と言われた。***ハムザはウトバに向かい、私はシャイバに向かった。***ウバイダとアル＝ワリードの間では二度の打撃が交わされた……

この伝承は、ハムザの相手が誰だったかという点でイブン・イスハークと異なります。どちらの伝承も、ハムザとアリーが相手を倒したこと、ウバイダが重傷を負ったことでは一致しています。

等級：アルバーニーによればサヒーフ（真正）。シュアイブ・アル＝アルナウートなど一部の研究者は伝承経路を弱いとしています — 『スナン・アビー・ダーウード』2665。

この出来事はあまりに大きく、アッラーはそれについての節を下されました。

巡礼章 22:19

۞هَٰذَانِ خَصۡمَانِ ٱخۡتَصَمُواْ فِي رَبِّهِمۡۖ فَٱلَّذِينَ كَفَرُواْ قُطِّعَتۡ لَهُمۡ ثِيَابٞ مِّن نَّارٖ يُصَبُّ مِن فَوۡقِ رُءُوسِهِمُ ٱلۡحَمِيمُ ١٩

これら両者は，かれらの主に就いて論争する敵手である。それで（主を）拒否する者のために仕立てられるのは，炎の衣装であろう。かれらに頭上から熱湯が注がれて，

訳：三田了一 — quran.com/22:19

教友アブー・ザッル・アル＝ギファーリー رضى الله عنه は、この節がバドルの日に一騎打ちをした人々について下されたと誓って言いました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 3969 番

حَدَّثَنَا يَعْقُوبُ بْنُ إِبْرَاهِيمَ، حَدَّثَنَا هُشَيْمٌ، أَخْبَرَنَا أَبُو هَاشِمٍ، عَنْ أَبِي مِجْلَزٍ، عَنْ قَيْسٍ، قَالَ سَمِعْتُ أَبَا ذَرٍّ، يُقْسِمُ قَسَمًا إِنَّ هَذِهِ الآيَةَ {هَذَانِ خَصْمَانِ اخْتَصَمُوا فِي رَبِّهِمْ} نَزَلَتْ فِي الَّذِينَ بَرَزُوا يَوْمَ بَدْرٍ حَمْزَةَ وَعَلِيٍّ وَعُبَيْدَةَ بْنِ الْحَارِثِ وَعُتْبَةَ وَشَيْبَةَ ابْنَىْ رَبِيعَةَ وَالْوَلِيدِ بْنِ عُتْبَةَ.

訳：

カイスは言いました。私は、アブー・ザッル رضى الله عنه が、*「これら両者は，かれらの主に就いて論争する敵手である」*という節は、バドルの日に戦いに進み出た者たちについて下されたと誓うのを聞きました。*ハムザ、アリー、ウバイダ・ブン・アル＝ハーリス*と、（相手の）ラビーアの二人の息子ウトバとシャイバ、そしてアル＝ワリード・ブン・ウトバです。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ヤアクーブ・ブン・イブラーヒーム ← フシャイム ← アブー・ハーシム・アッ＝ルンマーニー ← アブー・ミジュラズ ← カイス・ブン・ウバード ← アブー・ザッル・アル＝ギファーリー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 3969 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠： https://sunnah.com/bukhari:3969

ハムザはバドルの日、戦い続けました。ワフシーのハディース（第 9 章）には、*ハムザがバドルでトゥアイマ・ブン・アディー・ブン・アル＝ヒヤールを倒した*ことが述べられています。この死が、のちにジュバイル・ブン・ムトイムが復讐のためにワフシーを雇うきっかけとなりました。

スィーラの注：ダチョウの羽をつけた男

イブン・イスハークの伝えるところでは、アブドッラフマーン・ブン・アウフ رضى الله عنه はバドルでウマイヤ・ブン・ハラフを捕虜にしました。ウマイヤは彼に尋ねました。「お前たちの中で、胸にダチョウの羽の印をつけていた男は誰だ。」アブドッラフマーンは「それはハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブだ」と答えました。ウマイヤは言いました。*「我々にこれほどのことをしたのは、あの男だ。」*

ハムザは戦場でその印によって知られていました。これは、彼が身を隠さなかったことを示しています。彼を探す者は、最前列に彼を見つけたのです。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝』バドルの章（ウマイヤ・ブン・ハラフの話）。

教訓

アッラーの使徒 ﷺ は、最初の一騎打ちに自分の家族、すなわち叔父といとこたちを選ばれました。身内を守りながら他人を死に送るようなことはされなかったのです。22:19 の節は、この出来事を審判の日まで伝えています。ハムザは、アッラーが述べられた「両者」の一方、真理をもって主について論争した側に属しているのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アリーのラクダの話

ブハーリーは、バドルの直後、***酒がまだ禁じられていなかった頃***に起きた、ハムザについての非常に率直な話を伝えています。この話は、教友たちも人間であったこと、そしてシャリーアが段階的に下されたことを示しています。

ハディース：アリーの二頭のラクダ

アリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه は言いました。私はバドルの戦利品の分け前として年老いた雌ラクダを一頭得て、預言者 ﷺ もフムス（五分の一）からもう一頭くださった。アッラーの使徒 ﷺ の娘ファーティマとの結婚を控えていた私は、カイヌカーウ族の金細工師と約束をした。一緒にイズヒル草を取りに行き、それを金細工師たちに売って婚礼の宴の費用に充てるつもりだった。

二頭のラクダのために鞍や綱を集めている間、ラクダはアンサールの男の部屋のそばに伏せていた。戻ってみると、***二頭ともこぶが切り取られ、脇腹が裂かれていた***。私は涙をこらえられなかった。「誰がこんなことをしたのか」と尋ねると、人々は言った。「ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブです。彼はこの家で、酒を飲んでいるアンサールの人たちと一緒にいます。」

私は預言者 ﷺ のもとへ行った。そばにはザイド・ブン・ハーリサがいた。預言者 ﷺ は私の顔を見て、「どうしたのか」と尋ねられた。私が話すと、彼は外衣を求めて身にまとい、歩き出された。私とザイドがその後に続き、その家に着いた。預言者 ﷺ はハムザをとがめられたが、ハムザは酔っていて目が赤かった。ハムザはアッラーの使徒 ﷺ を、膝から顔まで見上げて言った。***「お前たちは、わが父の奴隷にすぎないではないか。」*** アッラーの使徒 ﷺ は彼が酔っていることを知り、後ずさりして立ち去られ、私たちも共に出た。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』3091；『サヒーフ・ブハーリー』4003および『サヒーフ・ムスリム』にもあります。

なぜこの話が伝えられたのか

このような話がなぜ最も真正なハディース集に収められているのか、不思議に思う人もいるでしょう。答えは、イスラームの典拠の誠実さです。教友たちは自分の人間的な弱さを隠しませんでした。またこの話は、酒、損害の賠償、理性を失った者についての規定の根拠にもなっています。

最も大切なのは、これが***酒が禁じられる前***の出来事だったということです。ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は、ある教友たちがウフドの朝に酒を飲み、その日のうちに殉教したこと、そしてそれは酒が禁じられる前だったことを伝えています（『サヒーフ・ブハーリー』4618）。まだ禁じられていなかったことについて、彼らに罪はありませんでした。

ハムザの「お前たちはわが父の奴隷にすぎない」という言葉は、理性を失った状態で口から出たものであり、アッラーの使徒 ﷺ はそのことで彼を罰されませんでした。賢明にもその場を離れることを選ばれたのです。これが預言者の人柄です。理性を失った人とは言い争わず、人前で叔父に恥をかかせないのです。

教訓

この話は、イスラームの英雄たちが天使ではなかったことを教えています。彼らは、その信仰と犠牲のゆえにアッラーが高められた人間でした。またこの話は、酒を禁じることの英知も示しています。アッラーの獅子にさえ、甥の財産を損ない、アッラーの使徒 ﷺ に乱暴な言葉を、それと気づかずに言わせてしまう飲み物なのです。

ウフドのアッラーの獅子

バドルの 1 年後、*ヒジュラ暦 3 年シャウワール月*、クライシュ族は復讐のため約 3000 人の兵を連れてやって来ました。その多くがバドルで父や兄弟や息子を失っており、多くがハムザに特別な恨みを抱いていました。

ウフド山の麓に、約 700 人のムスリムが隊列を組みました。戦いの初め、ハムザは最前列で戦いました。ワフシーの真正なハディースによれば、両軍が隊列を組むと、*シバーウ・ブン・アブドゥルウッザー*が出てきて「誰か私と戦う者はいるか」と挑みました。ハムザは彼の前に出て、「シバーウよ、ウンム・アンマールの息子よ、お前はアッラーとその使徒に敵対するのか」と言いました。そしてハムザが襲いかかると、シバーウは*「過ぎ去った昨日のように」*消え去りました。

> **スィーラの注：クライシュ族の旗手たち**
>
> イブン・イスハークは、ハムザがウフドでクライシュ族の旗手の一人*アルター・ブン・アブドゥシュラフビール*も倒したと述べています。クライシュ族の旗はアブドゥッダール家の男たちが順に担っていましたが、彼らは教友たちの手によって次々と倒れていきました。
>
> スィーラの書は、その日のハムザを、獅子のように戦い、恐れることなく敵の隊列を突き破る姿として描いています。この姿は、イブン・イスハークの伝承の中でワフシー自身が語った言葉とも一致します。ハムザは近づく者を次々と剣で倒していた、というのです。
>
> **参照：**
> イブン・ヒシャーム『預言者伝』ウフドの章。

しかし岩陰では、一人のアビシニア人の奴隷が槍を手に待ち構えていました。彼はクライシュ族のためにも偶像のためにも戦っていたのではありません。彼が求めていたのはただ一つ、*自由*でした。そしてその代価が、ハムザの命だったのです。

アッラーは、ウフドの試練の英知をイムラーン家章で説明されています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

イムラーン家章 3:140

إِن يَمْسَسْكُمْ قَرْحٌ فَقَدْ مَسَّ ٱلْقَوْمَ قَرْحٌ مِّثْلُهُۥ ۚ وَتِلْكَ ٱلْأَيَّامُ نُدَاوِلُهَا بَيْنَ ٱلنَّاسِ وَلِيَعْلَمَ ٱللَّهُ ٱلَّذِينَ ءَامَنُوا۟ وَيَتَّخِذَ مِنكُمْ شُهَدَآءَ ۗ وَٱللَّهُ لَا يُحِبُّ ٱلظَّٰلِمِينَ ﴿١٤٠﴾

あなたがたがもし損傷を被っても，相手方もまた同様の打撃を受けている。われは人間の間に（種々の運命の）こんな日を交互に授ける。アッラーはこれによって（本当の）信者を知り，あなたがたの中から（真理のための殉教の）実証者をあげられる。アッラーは不義の徒を愛されない。

訳：三田了一 — quran.com/3:140

「*……あなたがたの中から（真理のための殉教の）実証者をあげられる。*」ハムザは、その日アッラーが選ばれた殉教者の中で最も高貴な人でした。

教訓

ハムザは、クライシュ族が自分をどれほど憎んでいるかを知りながら、身を隠しませんでした。最前列に留まったのです。本当の勇気とは危険がないことではなく、危険が待ち伏せていても、立つべき場所に立ち続けることです。ウフドはまた、勝利と敗北が交互に訪れること、そして残るのは信仰と報奨であることを教えています。

ワフシーの槍

ハムザの殉教の話を伝えたのは、ほかならぬ***彼を殺した本人***でした。ウフドから何年も後、入信したワフシー・ブン・ハルブがシャームのヒムスに住んでいたとき、二人のタービウーン（教友の次の世代）が彼のもとを訪れ、何が起きたのか話してほしいと頼みました。ブハーリーはその語りを余すところなく伝えています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4072 番

حَدَّثَنِي أَبُو جَعْفَرٍ، مُحَمَّدُ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ حَدَّثَنَا حُجَيْنُ بْنُ الْمُثَنَّى، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْعَزِيزِ بْنُ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ أَبِي سَلَمَةَ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ الْفَضْلِ، عَنْ سُلَيْمَانَ بْنِ يَسَارٍ، عَنْ جَعْفَرِ بْنِ عَمْرِو بْنِ أُمَيَّةَ الضَّمْرِيِّ، قَالَ خَرَجْتُ مَعَ عُبَيْدِ اللَّهِ بْنِ عَدِيِّ بْنِ الْخِيَارِ، فَلَمَّا قَدِمْنَا حِمْصَ قَالَ لِي عُبَيْدُ اللَّهِ هَلْ لَكَ فِي وَحْشِيٍّ نَسْأَلُهُ عَنْ قَتْلِ حَمْزَةَ قُلْتُ نَعَمْ. وَكَانَ وَحْشِيٌّ يَسْكُنُ حِمْصَ فَسَأَلْنَا عَنْهُ فَقِيلَ لَنَا هُوَ ذَاكَ فِي ظِلِّ قَصْرِهِ، كَأَنَّهُ حَمِيتٌ. قَالَ فَجِئْنَا حَتَّى وَقَفْنَا عَلَيْهِ بِيَسِيرٍ، فَسَلَّمْنَا، فَرَدَّ السَّلاَمَ، قَالَ وَعُبَيْدُ اللَّهِ مُعْتَجِرٌ بِعِمَامَتِهِ، مَا يُرَى وَحْشِيٌّ إِلاَّ عَيْنَيْهِ وَرِجْلَيْهِ، فَقَالَ عُبَيْدُ اللَّهِ يَا وَحْشِيُّ أَتَعْرِفُنِي قَالَ فَنَظَرَ إِلَيْهِ ثُمَّ قَالَ لاَ وَاللَّهِ إِلاَّ أَنِّي أَعْلَمُ أَنَّ عَدِيَّ بْنَ الْخِيَارِ تَزَوَّجَ امْرَأَةً يُقَالُ لَهَا أُمُّ قِتَالٍ بِنْتَ أَبِي الْعِيصِ، فَوَلَدَتْ لَهُ غُلاَمًا بِمَكَّةَ، فَكُنْتُ أَسْتَرْضِعُ لَهُ، فَحَمَلْتُ ذَلِكَ الْغُلاَمَ مَعَ أُمِّهِ، فَنَاوَلَتْهَا إِيَّاهُ، فَلَكَأَنِّي نَظَرْتُ إِلَى قَدَمَيْكَ. قَالَ فَكَشَفَ عُبَيْدُ اللَّهِ عَنْ وَجْهِهِ ثُمَّ قَالَ أَلاَ تُخْبِرُنَا بِقَتْلِ حَمْزَةَ قَالَ نَعَمْ، إِنَّ حَمْزَةَ قَتَلَ طُعَيْمَةَ بْنَ عَدِيِّ بْنِ الْخِيَارِ بِبَدْرٍ، فَقَالَ لِي مَوْلاَىَ جُبَيْرُ بْنُ مُطْعِمٍ إِنْ قَتَلْتَ حَمْزَةَ بِعَمِّي فَأَنْتَ حُرٌّ، قَالَ فَلَمَّا أَنْ خَرَجَ النَّاسُ عَامَ عَيْنَيْنِ ـ وَعَيْنَيْنِ جَبَلٌ بِحِيَالِ أُحُدٍ، بَيْنَهُ وَبَيْنَهُ وَادٍ ـ خَرَجْتُ مَعَ النَّاسِ إِلَى الْقِتَالِ، فَلَمَّا اصْطَفُّوا لِلْقِتَالِ خَرَجَ سِبَاعٌ فَقَالَ هَلْ مِنْ مُبَارِزٍ قَالَ فَخَرَجَ إِلَيْهِ حَمْزَةُ بْنُ عَبْدِ الْمُطَّلِبِ فَقَالَ يَا سِبَاعُ يَا ابْنَ أُمِّ أَنْمَارٍ مُقَطِّعَةِ الْبُظُورِ، أَتُحَادُّ اللَّهَ وَرَسُولَهُ صلى الله عليه وسلم قَالَ ثُمَّ شَدَّ عَلَيْهِ فَكَانَ كَأَمْسِ الذَّاهِبِ ـ قَالَ ـ وَكَمَنْتُ لِحَمْزَةَ تَحْتَ صَخْرَةٍ فَلَمَّا دَنَا مِنِّي رَمَيْتُهُ بِحَرْبَتِي، فَأَضَعُهَا فِي ثُنَّتِهِ حَتَّى خَرَجَتْ مِنْ بَيْنِ وَرِكَيْهِ ـ قَالَ ـ فَكَانَ ذَاكَ الْعَهْدَ بِهِ، فَلَمَّا رَجَعَ النَّاسُ رَجَعْتُ مَعَهُمْ فَأَقَمْتُ بِمَكَّةَ،

حَتَّى فَشَا فِيهَا الإِسْلاَمُ، ثُمَّ خَرَجْتُ إِلَى الطَّائِفِ، فَأَرْسَلُوا إِلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم رَسُولاً، فَقِيلَ لِي إِنَّهُ لاَ يَهِيجُ الرُّسُلَ ـ قَالَ ـ فَخَرَجْتُ مَعَهُمْ حَتَّى قَدِمْتُ عَلَى رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَلَمَّا رَآنِي قَالَ " آنْتَ وَحْشِيٌّ ". قُلْتُ نَعَمْ. قَالَ " أَنْتَ قَتَلْتَ حَمْزَةَ ". قُلْتُ قَدْ كَانَ مِنَ الأَمْرِ مَا بَلَغَكَ. قَالَ " فَهَلْ تَسْتَطِيعُ أَنْ تُغَيِّبَ وَجْهَكَ عَنِّي ". قَالَ فَخَرَجْتُ، فَلَمَّا قُبِضَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَخَرَجَ مُسَيْلِمَةُ الْكَذَّابُ قُلْتُ لأَخْرُجَنَّ إِلَى مُسَيْلِمَةَ لَعَلِّي أَقْتُلُهُ فَأُكَافِئَ بِهِ حَمْزَةَ ـ قَالَ ـ فَخَرَجْتُ مَعَ النَّاسِ، فَكَانَ مِنْ أَمْرِهِ مَا كَانَ ـ قَالَ ـ فَإِذَا رَجُلٌ قَائِمٌ فِي ثَلْمَةِ جِدَارٍ، كَأَنَّهُ جَمَلٌ أَوْرَقُ ثَائِرُ الرَّأْسِ ـ قَالَ ـ فَرَمَيْتُهُ بِحَرْبَتِي، فَأَضَعُهَا بَيْنَ ثَدْيَيْهِ حَتَّى خَرَجَتْ مِنْ بَيْنِ كَتِفَيْهِ ـ قَالَ ـ وَوَثَبَ إِلَيْهِ رَجُلٌ مِنَ الأَنْصَارِ، فَضَرَبَهُ بِالسَّيْفِ عَلَى هَامَتِهِ. قَالَ قَالَ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ الْفَضْلِ فَأَخْبَرَنِي سُلَيْمَانُ بْنُ يَسَارٍ أَنَّهُ سَمِعَ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ عُمَرَ يَقُولُ فَقَالَتْ جَارِيَةٌ عَلَى ظَهْرِ بَيْتٍ وَا أَمِيرَ الْمُؤْمِنِينَ، قَتَلَهُ الْعَبْدُ الأَسْوَدُ.

訳：

ジャアファル・ブン・アムル・ブン・ウマイヤ・アッ＝ダムリーは言いました。私はウバイドゥッラー・ブン・アディー・ブン・アル＝ヒヤールと共に旅に出た。ヒムスに着くと、ウバイドゥッラーが私に言った。「ワフシーのところへ行って、ハムザが殺されたときのことを尋ねてみないか。」私は「ええ」と答えた。ワフシーはヒムスに住んでいた。彼のことを尋ねると、「あそこです。自分の館の陰に、いっぱいに膨らんだ水袋のように座っています」と言われた。私たちは行って、少し離れたところに立ち、挨拶した。彼は挨拶を返した。ウバイドゥッラーはターバンで顔を覆っていたので、ワフシーには彼の目と足しか見えなかった。ウバイドゥッラーが「ワフシーよ、私が分かるか」と言うと、ワフシーは彼を見て言った。「いいや、アッラーにかけて分からない。ただ、アディー・ブン・アル＝ヒヤールがウンム・キタール・ビント・アビー・アル＝イースという女性と結婚し、彼女がマッカで男の子を産み、私がその子の乳母を探したことは知っている。私はその子を母親と一緒に運び、乳母に手渡した。まるでその足を見ているようだ。」そこでウバイドゥッラーは顔の覆いを取り、「ハムザが殺されたときのことを話してくれないか」と言った。彼は言った。*「よかろう。ハムザはバドルで*

*トゥアイマ・ブン・アディー・ブン・アル＝ヒヤールを殺した。そこで私の主人ジュバイル・ブン・ムトイムが私に言った。『私のおじの仇としてハムザを殺せば、お前は自由だ。』アイナインの年に人々が出陣したとき（アイナインはウフドに向かい合う丘で、間に谷がある）、私も戦うために彼らと共に出た。彼らが戦いのために隊列を組むと、シバーウが出てきて『誰か戦う者はいるか』と言った。ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブが彼の前に出て言った。『シバーウよ、女子に割礼を施すウンム・アンマールの息子よ、お前はアッラーとその使徒ﷺに敵対するのか。』そしてハムザが彼に襲いかかると、彼は過ぎ去った昨日のようになった。私は岩の下に潜んでハムザを待ち伏せた。彼が私に近づいたとき、私は槍を投げ、それは彼の下腹部に当たり、尻の間から突き抜けた。それが彼の最期だった。」「人々が帰ると、私も一緒に帰り、イスラームがマッカに広まるまでそこに留まった。それからターイフへ出た。ターイフの人々がアッラーの使徒ﷺに使者を送ったとき、使徒は使者に危害を加えないと聞いた。そこで私も彼らと共に出て、アッラーの使徒ﷺの前に出た。私を見ると、彼は尋ねられた。『お前がワフシーか。』私は『はい』と答えた。『お前がハムザを殺したのか。』私は『お聞きになったとおりです』と答えた。彼は言われた。『お前の顔を私から隠すことはできるか。』それで私は立ち去った。」「アッラーの使徒ﷺが亡くなり、偽り者ムサイリマが現れると、私は言った。『必ずムサイリマに立ち向かおう。もしかしたら彼を殺し、ハムザの償いができるかもしれない。』私は人々と共に出陣し、あのことが起こった。ふと見ると、壁の割れ目に灰色のラクダのような、髪の乱れた男が立っていた。私は槍を投げ、それは彼の両胸の間に当たり、両肩の間から突き抜けた。するとアンサールの男が彼に飛びかかり、剣で頭を打った。」*アブドゥッラー・ブン・アル＝ファドルは言いました。スライマーン・ブン・ヤサールが私に伝えたところでは、彼はアブドゥッラー・ブン・ウマルがこう言うのを聞いた。家の屋根の上にいた女奴隷が叫んだ。「ああ、信仰者たちの長が！黒い奴隷が彼を殺した。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・ジャアファル・ムハンマド・ブン・アブドゥッラー ← フジャイン・ブン・アル＝ムサンナー ← アブドゥルアズィーズ・ブン・アブドゥッラー・ブン・アビー・サラマ ← アブドゥッラー・ブン・アル＝ファドル ← スライマーン・ブン・ヤサール ← ジャアファル・ブン・アムル・ブン・ウマイ

ヤ・アッ＝ダムリー（ウバイドゥッラー・ブン・アディーと共にワフシー・ブン・ハルブ رضى الله عنه を訪ねた人）。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4072 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠： https://sunnah.com/bukhari:4072

ワフシーとは誰か

*ワフシー・ブン・ハルブ*は、ジュバイル・ブン・ムトイムのアビシニア人奴隷でした。多くのアビシニア人と同じく槍（ハルバ）投げの名手で、めったに外しませんでした。ハムザに個人的な恨みはありませんでした。彼は他人の復讐の道具にすぎなかったのです。それは、おじトゥアイマ・ブン・アディーを殺した者へのジュバイルの復讐でした。

語り手の誠実さ

ワフシーが自分の行いを何一つ隠さずに語っていることに注目してください。岩陰に隠れ、待ち、遠くから投げたのです。ハムザと正面から戦ったとは主張していません。この誠実さは、イスラームが彼をどう変えたかを示しています。彼は、人々が教訓を得られるよう、自分の最大の罪を語ったのです。

この伝承はまた、ハディースの伝承者たちの熱心さも示しています。ジャアファル・ブン・アムルとウバイドゥッラー・ブン・アディーは、主要な証人から直接話を聞くためだけに、マディーナからヒムスまで旅をしたのです。

教訓

ハムザは一騎打ちではなく、隠れた所からの攻撃で倒れました。英雄はしばしば、自らの弱さではなく他人の策略によって倒れます。しかしアッラーの御許での殉教

の栄誉は少しも減りません。そして槍を投げた男は、のちにハムザの偉大さを後の世代に語り伝える証人となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒンドとハムザの遺体

アブー・スフヤーンの妻***ヒンド・ビント・ウトバ***は、戦士たちを奮い立たせるため、クライシュ族の女性たちと共にウフドへ来ました。バドルでは父ウトバ、叔父シャイバ、兄弟アル＝ワリードが殺されており、一騎打ちの伝承によれば、そのうち二人はハムザとアリーの手によるものでした。そのため、ハムザへの彼女の恨みは非常に深いものでした。

真正なこと：殉教者たちの遺体は損壊された

真正な伝承と良好な伝承は、ハムザを含むウフドの殉教者たちの遺体が多神教徒によって***損壊された***ことを確かめています。ウバイイ・ブン・カアブ رضى الله عنه は、彼らが殉教者を「損壊した」と述べています（第 11 章）。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ がハムザの遺体が損壊されているのを見つけられたことを伝えています。

> **ハディース：アブー・スフヤーンの告白**
>
> ウフドについてのアル＝バラー・ブン・アーズィブ رضى الله عنه の長いハディースの中で、アブー・スフヤーンは戦いの後に丘の上から呼ばわりました。***「バドルの日の仕返しだ。戦いは交互に勝ち負けがある。お前たちは損壊された者を見つけるだろう。私が命じたのではないが、それを不快にも思わない。」***
>
> この告白は、クライシュ族の指導者が正式に命じたのではないにしても、損壊が実際に行われたことを示しています。
>
> ***等級：***サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』4043。

真正でないこと：肝臓をかんだ話

非常に有名な話に、ヒンドがハムザの胸を裂いて肝臓を取り出してかんだが、飲み込めなかったというものがあります。この話は***イブン・イスハーク***がサーリフ・ブ

ン・カイサーンから、途切れた伝承経路で伝えたものです。また***『ムスナド・アフマド』（4414）***にもイブン・マスウードからの伝承として出てきますが、研究者たちはその伝承経路を***弱い***としています。シャアビーはイブン・マスウードから直接聞いておらず、アター・ブン・アッ＝サーイブは晩年に記憶が混乱していたからです。

したがって安全なのは、真正な伝承で確かめられている「ハムザの遺体は***損壊された***」ということを語り、肝臓についての細部を確かな事実のように広めないことです。

ヒンドの入信

ハディース：「最も栄えてほしいと願う一族」

アーイシャ رضى الله عنها は伝えています。ヒンド・ビント・ウトバが（マッカ開放の後に）やって来て言った。***「アッラーの使徒よ、かつて地上に、あなたの一族ほど辱められてほしいと願った一族はありませんでした。けれども今日、地上に、あなたの一族ほど栄えてほしいと願う一族はありません。」*** アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「わが魂をその御手に握る御方にかけて、私も（そう思う）。」

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』3825。

ヒンドはマッカ開放の日（ヒジュラ暦 8 年）に入信し、女性の教友となりました。アッラーの使徒 ﷺ はアムル・ブン・アル＝アースに言われました。***「イスラームがそれ以前のことを消し去ることを知らないのか」***（『サヒーフ・ムスリム』121）。ですからムスリムは、イスラーム以前の行いでヒンドを非難すべきではありません。ウフドでの役割のためにハーリド・ブン・アル＝ワリードを非難しないのと同じです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓

歴史を語るときには慎重でなければなりません。最も劇的な話が、いつも最も真正な話とは限りません。確かな事実だけで、ハムザに加えられた残酷さを示すには十分であり、弱い細部を付け加える必要はありません。そしてヒンドの話は、人の心が完全に変わりうることを教えています。最も深い憎しみから、最も誠実な愛へと。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーの使徒ﷺの涙

戦いが終わると、アッラーの使徒 ﷺ は殉教者たちの中に叔父を探されました。見つけたとき、ハムザの遺体が損壊されているのを目にされました。スィーラの書は、アッラーの使徒 ﷺ がこれほど悲しまれる姿は見られたことがなかったと伝えています。

ハディース：ハムザの経帷子

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は言いました。ウフドの日、アッラーの使徒 ﷺ はハムザのもとへ来られ、そのそばに立ち、遺体が損壊されているのを見て言われた。 ***「もしサフィーヤが悲しむことがなければ、私は彼を（ここに）残して野の獣に食べさせ、審判の日に彼が獣たちの腹から呼び集められるようにしただろう。」***

それから彼は、彼を包むためのナミラ（縞模様の毛織の布）を求められた。布を頭の方に引くと足が出て、足の方に引くと頭が出た。そこで頭の方に引かれた。その日は布が少なく死者が多かったので、二人、三人が一枚の布に包まれた。

等級： アルバーニーによればサヒーフ（真正）— 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1016；ハサン（良好）— 『スナン・アビー・ダーウード』3136。

スィーラの注：サフィーヤの二枚の布

ハムザの妹サフィーヤ・ビント・アブドゥルムッタリブ رضى الله عنها が兄に会いにやって来ました。アッラーの使徒 ﷺ は、ハムザの遺体の様子を見せないよう、彼女の息子アッ＝ズバイル・ブン・アル＝アウワームに彼女を止めるよう頼まれました。サフィーヤは、すでに起きたことは知っていると言い、忍耐してアッラーからの報奨を望むと答えました。

サフィーヤはハムザを包むために二枚の布を持って来ました。ハムザの横に、包む布のないアンサールの殉教者が横たわっているのを見つけると、アンサールの男に何もないのにハムザを二枚の布で包むことを恥じました。そこで二人をそれぞれ一枚ずつの布で包みました。

参照：

『ムスナド・アフマド』1418（アッ＝ズバイル・ブン・アル＝アウワームから。一部の研究者は伝承経路をハサンとしている）；イブン・ヒシャーム、ウフドの章。

ハムザのために泣く者はいない

マディーナに戻られたアッラーの使徒 ﷺ は、倒れた身内のために泣くアンサールの女性たちの声を耳にされました。ハムザはムハージルであり、家族は遠くマッカにいました。そこで預言者 ﷺ は、胸を打つ一言を述べられました。

ハディース ― 『スナン・イブン・マージャ』第 1591 番

حَدَّثَنَا هَارُونُ بْنُ سَعِيدٍ الْمِصْرِيُّ، حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ وَهْبٍ، أَنْبَأَنَا أُسَامَةُ بْنُ زَيْدٍ، عَنْ نَافِعٍ، عَنِ ابْنِ عُمَرَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ ـ صلى الله عليه وسلم ـ مَرَّ بِنِسَاءِ عَبْدِ الأَشْهَلِ يَبْكِينَ هَلْكَاهُنَّ يَوْمَ أُحُدٍ فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ ـ صلى الله عليه وسلم ـ " لَكِنَّ حَمْزَةَ لاَ بَوَاكِيَ لَهُ " . فَجَاءَ نِسَاءُ الأَنْصَارِ يَبْكِينَ حَمْزَةَ فَاسْتَيْقَظَ رَسُولُ اللَّهِ ـ صلى الله عليه وسلم ـ فَقَالَ " وَيْحَهُنَّ مَا انْقَلَبْنَ بَعْدُ؟ مُرُوهُنَّ فَلْيَنْقَلِبْنَ وَلاَ يَبْكِينَ عَلَى هَالِكٍ بَعْدَ الْيَوْمِ " .

訳：

イブン・ウマル رضى الله عنهما は伝えています。アッラーの使徒 ﷺ は、ウフドの日に亡くなった身内のために泣いているアブドゥルアシュハル族の女性たちのそばを通られた。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。*「だが、ハムザには泣いてくれる女性がいない。」*そこでアンサールの女性たちがやって来て、ハムザのために泣いた。その後アッラーの使徒 ﷺ は（眠りから）目を覚まして言われた。*「なんということだ、彼女たちはまだ帰っていないのか。帰るように言いなさい。そして今日の後は、亡くなった誰のためにも（泣き叫んで）泣いてはならない。」*

伝承経路： イマーム・イブン・マージャの伝承：ハールーン・ブン・サイード・アル＝ミスリー ← アブドゥッラー・ブン・ワフブ ← ウサーマ・ブン・ザイド・アッ＝ライスィー ← ナーフィウ ← イブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・イブン・マージャ『スナン・イブン・マージャ』葬儀の書、ハディース第 1591 番。

等級： ハサン・サヒーフ ― アルバーニーはハサン・サヒーフ、シュアイブ・アル＝アルナウートはハサンとしています。

*典拠：*https://sunnah.com/ibnmajah:1591

*「彼のために泣く者はいない」*という言葉は不平ではなく、故郷から遠く離れて叔父を失った甥の愛情でした。しかし泣き声が長い泣き叫びに変わると、預言者 ﷺ はすぐにそれを禁じられました。今日の後は、亡くなった誰のためにも泣き叫んではならない、と。涙と悲しみは許されますが、泣き叫ぶこと（ニヤーハ）は禁じられています。

報復と忍耐のあいだ

殉教者たちの遺体に加えられた残酷さは、ムスリムの間に大きな怒りを呼び起こしました。ティルミズィーは、アッラーがクルアーンの一節によって彼らをどのように導かれたかを伝えています。

ハディース ― 『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』第 3129 番

حَدَّثَنَا أَبُو عَمَّارٍ الْحُسَيْنُ بْنُ حُرَيْثٍ، حَدَّثَنَا الْفَضْلُ بْنُ مُوسَى، عَنْ عِيسَى بْنِ عُبَيْدٍ، عَنِ الرَّبِيعِ بْنِ أَنَسٍ، عَنْ أَبِي الْعَالِيَةِ، قَالَ حَدَّثَنِي أُبَيُّ بْنُ كَعْبٍ، قَالَ لَمَّا كَانَ يَوْمُ أُحُدٍ أُصِيبَ مِنَ الأَنْصَارِ أَرْبَعَةٌ وَسِتُّونَ رَجُلاً وَمِنَ الْمُهَاجِرِينَ سِتَّةٌ فِيهِمْ حَمْزَةُ فَمَثَّلُوا بِهِمْ فَقَالَتِ الأَنْصَارُ لَئِنْ أَصَبْنَا مِنْهُمْ يَوْمًا مِثْلَ هَذَا لَنُرْبِيَنَّ عَلَيْهِمْ قَالَ فَلَمَّا كَانَ يَوْمُ فَتْحِ مَكَّةَ فَأَنْزَلَ اللَّهُ (وَإِنْ عَاقَبْتُمْ فَعَاقِبُوا بِمِثْلِ مَا عُوقِبْتُمْ بِهِ وَلَئِنْ صَبَرْتُمْ لَهُوَ خَيْرٌ لِلصَّابِرِينَ) فَقَالَ رَجُلٌ لاَ قُرَيْشَ بَعْدَ الْيَوْمِ فَقَالَ رَسُولُ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم " كُفُّوا عَنِ الْقَوْمِ إِلاَّ أَرْبَعَةً " . قَالَ هَذَا حَدِيثٌ حَسَنٌ غَرِيبٌ مِنْ حَدِيثِ أُبَيِّ بْنِ كَعْبٍ .

訳：

ウバイイ・ブン・カアブ رضى الله عنه は言いました。ウフドの日、アンサールから 64 人、ムハージルーンから 6 人が殺され、その中にハムザがいた。彼ら（多神教徒）は遺体を損壊した。アンサールは言った。「もしいつか彼らにこのように勝つことがあれば、必ずそれ以上のことをしてやろう。」マッカ開放の日になると、アッラーは下された。*「もしあなたがたが罰するなら，あなたがたが悩まされたように罰しなさい。だがあなたがたがもし耐え忍ぶならば，それは耐え忍ぶ者にとって最も善いことである。」* ある男が「今日の後、クライシュ族はもうないだろう」と言った。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。*「四人を除いて、人々に手を出してはならない。」*

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アブー・アンマール・アル＝フサイン・ブン・フライス ← アル＝ファドル・ブン・ムーサー ← イーサー・ブン・ウバイド ← アッ＝ラビーウ・ブン・アナス ← アブー・アル＝アーリヤ ← ウバイイ・ブン・カアブ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』クルアーン解釈の書、ハディース第 3129 番。

等級： ハサン（良好）― ティルミズィーは「ハサン・ガリーブ」と述べ、アルバーニーは伝承経路をハサン・サヒーフとしています。

典拠： https://sunnah.com/tirmidhi:3129

蜜蜂章 16:126

وَإِنۡ عَاقَبۡتُمۡ فَعَاقِبُواْ بِمِثۡلِ مَا عُوقِبۡتُم بِهِۦۖ وَلَئِن صَبَرۡتُمۡ لَهُوَ خَيۡرٞ لِّلصَّٰبِرِينَ ١٢٦

もしあなたがたが罰するなら，あなたがたが悩まされたように罰しなさい。だがあなたがたがもし耐え忍ぶならば，それは耐え忍ぶ者にとって最も善いことである。

訳：三田了一 — quran.com/16:126

蜜蜂章 16:127

وَٱصۡبِرۡ وَمَا صَبۡرُكَ إِلَّا بِٱللَّهِۚ وَلَا تَحۡزَنۡ عَلَيۡهِمۡ وَلَا تَكُ فِي ضَيۡقٖ مِّمَّا يَمۡكُرُونَ ١٢٧

あなたは忍耐強くあれ。あなたの忍耐は，アッラー（の助け）による外にはないのである。かれらのために憂慮しないで，またかれらの策謀したことのために，心を狭めてはならない。

訳：三田了一 — quran.com/16:127

一部の注釈者は、この節はウフドで、アッラーの使徒 ﷺ がハムザの遺体をご覧になったときに下されたと言います。上のウバイイ・ブン・カアブの伝承は、マッカ開放の日に下されたと言います。イブン・カスィールは両方の説を挙げています。確かなのは、アッラーの使徒 ﷺ がマッカでクライシュ族に対して力を得られたとき、報復ではなく***忍耐と赦しを選ばれた***ということです。

スィーラの注：ハムザのために葬儀の礼拝は行われたか

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は、アッラーの使徒 ﷺ がウフドの殉教者たちを血のついたまま埋葬し、***洗わず、葬儀の礼拝も行わないよう***命じられたと伝えています（『サヒーフ・ブハーリー』1343）。

イブン・アッバース رضى الله عنهما は、殉教者たちがアッラーの使徒 ﷺ のもとへ運ばれ、彼は10人ずつ礼拝を行い、ハムザはその場に置かれたままだった、つまりどの組と共にもハムザのために礼拝したと伝えています（『スナン・イブン・マージャ』1513、アルバーニーはサヒーフとしている）。

学者たちは、これらの伝承をどう調和させるかで意見が分かれています。シャーフィイー派とマーリク派はジャービルの伝承（礼拝なし）に従い、ハナフィー派は礼拝に言及する伝承に従います。ウクバ・ブン・アーミル رضى الله عنه は、8年後にアッラーの使徒 ﷺ が出て来られ、生者と死者に別れを告げる人のようにウフドの殉教者たちのために礼拝されたと伝えています（『サヒーフ・ブハーリー』4042）。

参照：
イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』葬儀の書（殉教者への礼拝の章）。

教訓

アッラーの使徒 ﷺ は最も忍耐強い人でしたが、それでも涙を流し、悲しまれました。悲しみは忍耐と矛盾しません。禁じられているのは、泣き叫ぶことと、限度を超えた報復です。16:126 の節は均衡を示しています。同等の報いは許されるが、忍耐の方が優れている。そしてアッラーの使徒 ﷺ は、より優れた方を選ばれたのです。

殉教者たちの長

ハムザの最も偉大な称号は*「サイイドゥ・アッ＝シュハダー」*、すなわち殉教者たちの長です。この称号は、アッラーの使徒 ﷺ ご自身の言葉から来ています。

ハディース：殉教者たちの長

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما は、アッラーの使徒 ﷺ がこう言われたと伝えています。*「殉教者たちの長はハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブである。そして、不正な支配者の前に立ち、善を命じ悪を禁じたために、その支配者に殺された男である。」*

等級： ハサン（良好）― アルバーニーが『真正なハディース集成（スィルスィラ・サヒーハ）』第 374 番でハサンとしています。dorar.net で確認する

参照：

ハーキム『二大サヒーフへの補遺（アル＝ムスタドラク）』（教友を知る書）；タバラーニー『アル＝ムウジャム・アル＝アウサト』。

このハディースが、ハムザを*不正な支配者をいさめる男*と並べていることに注目してください。二人には共通点があります。抑圧的な力の前で真理のために立ち上がる勇気です。ハムザはマッカでアブー・ジャフルの前でそれを行い、続いてバドルとウフドで行いました。

殉教者たちは生きている

アッラーは、ハムザをはじめとするウフドの殉教者たちの境遇について保証を与えておられます。

イムラーン家章 3:169

وَلَا تَحْسَبَنَّ ٱلَّذِينَ قُتِلُوا۟ فِى سَبِيلِ ٱللَّهِ أَمْوَٰتًۢا ۚ بَلْ أَحْيَآءٌ عِندَ رَبِّهِمْ يُرْزَقُونَ ﴿١٦٩﴾

アッラーの道のために殺害された者を，死んだと思ってはならない。いや，かれらは主の御許で扶養されて，生きている。

訳：三田了一 — quran.com/3:169

イムラーン家章 3:170

فَرِحِينَ بِمَآ ءَاتَىٰهُمُ ٱللَّهُ مِن فَضْلِهِۦ وَيَسْتَبْشِرُونَ بِٱلَّذِينَ لَمْ يَلْحَقُوا۟ بِهِم مِّنْ خَلْفِهِمْ أَلَّا خَوْفٌ عَلَيْهِمْ وَلَا هُمْ يَحْزَنُونَ ﴿١٧٠﴾

かれらはアッラーの恩恵により，授かったものに満悦し，かれらのあとに続く（生き残った）人たちのために喜んでいる。その（生き残った）人たちは恐れもなく憂いもないと。

訳：三田了一 — quran.com/3:170

ハディース：緑の鳥の中の魂

イブン・アッバース رضى الله عنهما は、アッラーの使徒 ﷺ がこう言われたと伝えています。*「あなたがたの兄弟がウフドで倒れたとき、アッラーは彼らの魂を緑の鳥の体の中に置かれた。鳥たちは楽園の川に降り立ち、その果実を食べ、玉座の陰に吊るされた金の灯火に身を寄せる。」*

食べ物と飲み物と憩いの場の素晴らしさを味わうと、彼らは言った。「私たちが楽園で生きて糧を受けていることを、誰が兄弟たちに伝えてくれるだろうか。そうすれば彼らはジハードから背を向けず、戦いから逃げないだろうに。」アッラーは言われた。「私があなたがたに代わって彼らに伝えよう。」そこでアッラーは下された。「アッラーの道のために殺害された者を，死んだと思ってはならない.....」

等級： ハサン（良好）— アルバーニーとシュアイブ・アル＝アルナウートがハサンとしています — 『スナン・アビー・ダーウード』2520。

教訓

ハムザの死は終わりではなく、アッラーの御許でのより高貴な生の始まりでした。「殉教者たちの長」という称号は、審判の日までムスリムに一つの扉を開いています。不正な支配者の前で真理を語る勇気を持ち、そのために殺される者は、ハムザと共にその栄誉にあずかるのです。

ワフシー、悔い改め、そしてムサイリマ

ウフドの後、ワフシーは自由を得ました。しかしマッカ開放（ヒジュラ暦8年）の後、イスラームがそこに広まると、彼はターイフへ逃げました。自分はムスリムの中に居場所がないと思ったのです。彼は預言者 ﷺ の叔父を殺した者でした。

ターイフの人々がアッラーの使徒 ﷺ に使節団を送ったとき（ヒジュラ暦 9 年）、ワフシーは、預言者 ﷺ は使者に危害を加えないと聞かされました。そこで彼は使節団と共に行き、アッラーの使徒 ﷺ の前で入信しました（第 9 章）。

「お前の顔を私から隠すことはできるか」

アッラーの使徒 ﷺ はワフシーの入信を受け入れられました。彼を罰することも、ハムザの血の償いを求めることも、追い返すこともされませんでした。しかしこう尋ねられました。「お前の顔を私から隠すことはできるか。」学者たちは、これは憎しみではなく***人間の自然な心情***であったと説明します。ワフシーの顔を見るたびに、叔父を思い出されたのです。ワフシーはそれを理解し、預言者 ﷺ が亡くなるまでその目に触れないようにしました。

集団章 39:53

۞ قُلۡ يَٰعِبَادِيَ ٱلَّذِينَ أَسۡرَفُواْ عَلَىٰٓ أَنفُسِهِمۡ لَا تَقۡنَطُواْ مِن رَّحۡمَةِ ٱللَّهِۚ إِنَّ ٱللَّهَ يَغۡفِرُ ٱلذُّنُوبَ جَمِيعًاۚ إِنَّهُۥ هُوَ ٱلۡغَفُورُ ٱلرَّحِيمُ ٥٣

自分の魂に背いて過ちを犯したわがしもべたちに言え，「それでもアッラーの慈悲に対して絶望してはならない」アッラーは，本当に凡ての罪を赦される。かれは寛容にして慈悲深くあられる。

訳：三田了一 — quran.com/39:53

同じ槍、別の標的

アッラーの使徒 ﷺ が亡くなった後、偽り者ムサイリマがヤマーマで預言者を自称しました。ワフシーは心の中で言いました。「必ずムサイリマに立ち向かおう。もしかしたら彼を殺し、ハムザの償いができるかもしれない。」ヤマーマの戦い（ヒジュラ暦11年末／西暦632年）で、ワフシーは同じ槍をムサイリマに投げて命中させ、アンサールの男が剣でとどめを刺しました。

スィーラの書は、ワフシーの次のような趣旨の言葉を伝えています。***この槍で私は人々の中で最も優れた者（ハムザ）を殺した。それで人々の中で最も悪い者（ムサイリマ）を殺したのだから、アッラーがそれを償いとしてくださることを願う。***

スィーラの注：ムサイリマを殺したのは誰か

ブハーリーのハディースでは、ワフシーが槍を投げ、続いてアンサールの男がムサイリマの頭を剣で打ったとされています。イブン・ハジャルは、このアンサールの男はアブドゥッラー・ブン・ザイド・ブン・アースィム・アル＝マーズィニーであると述べており、ほかの説もあります。

つまり二人ともムサイリマを倒すことにかかわったのです。ワフシーは自分一人で殺したとは主張しませんでした。これもまた彼の誠実さを示しています。

参照：

イブン・ハジャル『ファトフ・アル＝バーリー』ハディース第4072番の注釈。

教訓

ワフシーの物語は、イスラームの歴史の中で最も美しい悔い改めの物語の一つです。殉教者たちの長ハムザを殺した者でさえ悔い改めが受け入れられたのなら、誰もアッラーの慈悲に絶望すべきではありません。真の悔い改めとは、後悔するだけでなく、かつて悪のために使った力を善のために使うことなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウフドにあるハムザの墓

ウフドの殉教者たちは、戦場そのもの、ウフド山の麓に葬られました。アッラーの使徒 ﷺ は、彼らをマディーナへ運ばず、倒れた場所に葬るよう命じられました。布も人手も限られていたため、二人、三人が一つの墓に葬られ、クルアーンをより多く知っていた者が前に置かれました（『サヒーフ・ブハーリー』1343）。

スィーラの書は、ハムザが、同じくウフドで殉教した甥の***アブドゥッラー・ブン・ジャフシュ*** رضي الله عنه と一つの墓に葬られたと伝えています。アブドゥッラーは、ハムザの姉妹ウマイマ・ビント・アブドゥルムッタリブの息子でした。

項目	内容
名称	ウフド殉教者墓地（マクバラ・シュハダー・ウフド）
位置	マディーナの北、預言者のモスクから約 5km、ウフド山の麓
すぐそば	弓兵の丘（ジャバル・アッ＝ルマート）。アブドゥッラー・ブン・ジュバイルと弓兵たちが配置された所
殉教者の数	スィーラの書によれば約 70 人
ハムザの墓	スィーラの伝承によれば、アブドゥッラー・ブン・ジャフシュと共に
現在	壁に囲まれた区域。訪問者は壁の外から挨拶する

殉教者の墓を訪れる作法

墓参りは、来世を思い起こし、死者のために祈るために勧められています。アッラーの使徒 ﷺ は墓参りの祈りを教えられました。***「この住まいの信仰者とムスリムの方々よ、あなたがたに平安あれ。私たちもアッラーが望まれるならば、あなたがたに加わるでしょう。私たちとあなたがたのために、アッラーに安寧を願います。」***（『サヒーフ・ムスリム』975）

スンナにかなった墓参りとは、挨拶し、祈り、教訓を得ることです。殉教者たちに願いごとをかなえてもらうよう呼びかけることはしません。祈りはアッラーだけに向けられるものだからです。私たちは彼らのために祈るのであって、彼らに祈るのではありません。

教訓

ウフドの麓にあるハムザの質素な墓は、人の栄誉がその墓の上に何が建てられているかでは測られないことを思い起こさせます。殉教者たちの長は足りない布に包まれ、甥と墓を分け合いました。それでも彼の名は、今日も何百万ものムスリムによって敬意をもって語られています。

ハムザの人柄

真正な話とスィーラの伝承から、ハムザ رضي الله عنه の主な人柄をまとめることができます。

資質	生涯の中の証拠	出典
勇気	バドルで一騎打ちに進み出た；ウフドでシバーウの挑戦に応じた	『サヒーフ・ブハーリー』3969、4072
真理の擁護者	アブー・ジャフルの前でアッラーの使徒 ﷺ を守った	イブン・イスハークの伝承
規律	マジュディー・ブン・アムルの仲裁を受け入れ、戦わずに帰った	イブン・サアド
最前列に立つ	戦場で見分けられるようダチョウの羽を身につけた	イブン・イスハークの伝承
家族への愛	娘がアッラーの使徒 ﷺ を「おじさま」と呼んだ；ザイドと兄弟とされた	『サヒーフ・ブハーリー』4251
約束を果たす	ウフドで退かずに倒れた	部族連合章 33:23

約束を果たした人

アッラーは、ご自分との約束を最後の一滴の血まで果たした信仰者たちを称えておられます。

部族連合章 33:23

مِّنَ ٱلۡمُؤۡمِنِينَ رِجَالٞ صَدَقُواْ مَا عَٰهَدُواْ ٱللَّهَ عَلَيۡهِۖ فَمِنۡهُم مَّن قَضَىٰ نَحۡبَهُۥ وَمِنۡهُم مَّن يَنتَظِرُۖ وَمَا بَدَّلُواْ تَبۡدِيلٗا ٢٣

信者の中には，アッラーと結んだ約束に忠実であった人びとが（多く）いたのである。或る者はその誓いを果し，また或る者は（なお）待っている。かれらは少しも（その信念を）変えなかった。

訳：三田了一 — quran.com/33:23

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه は、教友たちがこの節は、ウフドで 80 以上の傷を負って倒れた彼の叔父*アナス・ブン・アン＝ナドル*と、*「彼のような人々」*について下されたと考えていたことを伝えています（『サヒーフ・ブハーリー』2805）。ハムザは「彼のような人々」の先頭に立つ人です。ウフドで「その誓いを果たした」のです。

部族の誇りから信仰の栄誉へ

イスラーム以前、ハムザの誇りは家柄と力から来ていました。イスラームの後、彼の栄誉は信仰と犠牲から来るようになりました。酔って「お前たちはわが父の奴隷にすぎない」と言った男が、ついには殉教者たちの中でアッラーの最も高貴なしもべとして倒れたのです。これがイスラームのもたらす変化です。部族の誇りが、アッラーへの畏れ（タクワー）に置き換えられるのです。

教訓

イスラームの英雄は、腕力の強さだけでなく、言葉への誠実さによって知られます。ハムザはマッカで入信したとき、アッラーの使徒 ﷺ を守ると約束し、ウフドで最後の一滴の血までその約束を果たしました。

ハムザの物語の典拠

次の表は、ハムザの生涯の主な出来事を、それぞれの伝承の出典と等級と共に示しています。スィーラの書の話は一般的な歴史として受け入れられますが、真正なハディースの水準にはありません。

出来事	出典	等級
アッラーの使徒 ﷺ の乳兄弟	『サヒーフ・ブハーリー』5100、4251	サヒーフ
入信（アブー・ジャフルの話）	イブン・イスハーク；ハーキム	有名；経路は弱い
最初の旗（サイフ・アル＝バフル）	イブン・サアド；ワーキディー；イブン・イスハーク	スィーラの書
バドルの一騎打ち；22:19 の節	『サヒーフ・ブハーリー』3969；『スナン・アビー・ダーウード』2665	サヒーフ
アリーのラクダの話	『サヒーフ・ブハーリー』3091	サヒーフ
ワフシーによる殉教	『サヒーフ・ブハーリー』4072	サヒーフ
遺体の損壊	『サヒーフ・ブハーリー』4043；『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1016、3129	サヒーフ／ハサン
ヒンドが肝臓をかんだ話	イブン・イスハーク；『ムスナド・アフマド』4414	弱い
彼のために泣く者はいない	『スナン・イブン・マージャ』1591	ハサン・サヒーフ
16:126 の節	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3129	ハサン
殉教者たちの長	ハーキム；タバラーニー；『スィルスィラ・サヒーハ』374	ハサン
ワフシーの入信；ムサイリマ	『サヒーフ・ブハーリー』4072	サヒーフ

教訓

ハムザについての重要な話の多くは『サヒーフ・ブハーリー』に収められています。このことは、勇敢で、誠実で、殉教した彼の姿が、言い伝えだけでなく確かな土台の上にあるという安心感を与えてくれます。

ハムザの物語の人物

この電子書籍に登場する主な人物と、ハムザ رضى الله عنه との関係です。

人物	関係と役割	章
アブドゥルムッタリブ・ブン・ハーシム	ハムザの父、預言者 ﷺ の祖父	1
ハーラ・ビント・ウハイブ	ハムザの母；アーミナ・ビント・ワフブのいとこ	1
スワイバ	ハムザとアッラーの使徒 ﷺ の乳母	1
アブー・ジャフル・ブン・ヒシャーム	ハムザが弓で打った人；サイフ・アル＝バフルのクライシュ族の指導者	3、5
ザイド・ブン・ハーリサ	マディーナでの兄弟の契りによるハムザの兄弟	4、7
マジュディー・ブン・アムル・アル＝ジュハニー	サイフ・アル＝バフルの仲裁者	5
アリー・ブン・アビー・ターリブ	いとこ；バドルの一騎打ちの仲間；二頭のラクダの持ち主	6、7
ウバイダ・ブン・アル＝ハーリス	一騎打ちの仲間；バドルの傷がもとで殉教	6
シャイバとウトバ（ラビーアの息子たち）	バドルの一騎打ちの相手	6
ワフシー・ブン・ハルブ	ハムザを殺した人；のちに入信しムサイリマに槍を投げた	9、13
ジュバイル・ブン・ムトイム	ワフシーの主人；彼に自由を約束した	9
ヒンド・ビント・ウトバ	ウフドでの敵；マッカ開放の後に入信	10

人物	関係と役割	章
サフィーヤ・ビント・アブドゥルムッタリブ	ハムザの妹；経帷子の布を持って来た	11
アブドゥッラー・ブン・ジャフシュ	甥；ハムザと共に葬られた	14
偽り者ムサイリマ	偽預言者；ヤマーマの戦いで殺された	13

ハムザの物語の場所

ハムザの生涯は、アラビア半島のいくつもの重要な場所を通っていきました。

場所	出来事	章
マッカ（カアバとサファー）	誕生、入信、アッラーの使徒 ﷺ の擁護	1–4
アブー・ターリブの谷	ハーシム家への約 3 年間の封じ込め	4
マディーナ	ヒジュラとザイド・ブン・ハーリサとの兄弟の契り	4
サイフ・アル＝バフル（イース）	ハムザの旗のもとでの最初の遠征	5
バドル	一騎打ちと最初の戦い	6
ウフドとアイナイン	戦いとハムザの殉教	8–11
ウフド殉教者墓地	ハムザと殉教者たちの墓	14
ターイフ	ワフシーが逃げた所；アッラーの使徒 ﷺ への使節団	13
ヒムス（シャーム）	ワフシーがタービウーンに話を語った所	9
ヤマーマ	ワフシーの槍でムサイリマが倒された所	13

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハムザの生涯の年表

以下の年代はスィーラの書に基づく推定です。西暦は目安として示しています。

時期	出来事
西暦 569 年頃	アッラーの使徒ﷺより約 2 年早く、マッカでハムザが生まれる
幼少期	アッラーの使徒ﷺと共にスワイバから乳を与えられる
西暦 595 年頃	ハディージャへの求婚にアッラーの使徒ﷺと同行する（イブン・イスハークによる）
預言者となって 6 年目（616 年）	アブー・ジャフルとの出来事の後に入信する
預言者となって 7–10 年目	アブー・ターリブの谷での封じ込めの間、ハーシム家と共にいる
ヒジュラ暦 1 年（622 年）	マディーナへ移住；ザイド・ブン・ハーリサと兄弟とされる
ヒジュラ暦 1 年ラマダーン月（623 年）	最初の旗を掲げてサイフ・アル＝バフル遠征を率いる
ヒジュラ暦 2 年ラマダーン月 17 日（624 年）	バドルの戦い；一騎打ち；22:19 の節
ヒジュラ暦 2 年	酒が禁じられる前の、アリーの二頭のラクダの話
ヒジュラ暦 3 年シャウワール月（625 年）	ウフドでワフシーにより殉教；ウフドの麓に葬られる
ヒジュラ暦 8 年（630 年）	マッカ開放；ヒンド・ビント・ウトバが入信する
ヒジュラ暦 9 年（630–631 年）	ワフシーがターイフの使節団と共に来て入信する
ヒジュラ暦 11 年（632 年）	アッラーの使徒ﷺがウフドから 8 年後に殉教者たちのために礼拝される；その後逝去される
ヒジュラ暦 11 年末（632 年）	ヤマーマの戦い；ワフシーの槍でムサイリマが倒される

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓

ハムザがムスリムとして生きたのは、わずか9年ほどでした。それでもその短い間に、彼の名は殉教者たちの長として刻まれました。人生の価値は長さではなく、何で満たされたかによって測られるのです。

ハムザについてよくある質問

この章では、ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブ رضي الله عنه についてよく尋ねられる質問に答えます。答えは簡潔にしています。詳しくは前の章をご覧ください。

1. ハムザはアッラーの使徒ﷺより年上でしたか？

はい。よく知られた説によれば約2歳年上で、4歳とする説もあります。預言者ﷺの叔父でしたが、年はほとんど同じでした。

2. ハムザとアッラーの使徒ﷺの乳兄弟の関係とは何ですか？

二人ともスワイバから乳を与えられました。そのため、アッラーの使徒 ﷺ はハムザの娘について「私の乳兄弟の娘である」と言われ、彼女と結婚されませんでした（『サヒーフ・ブハーリー』5100）。

3. ハムザの称号は何ですか？

アサドゥッラー（アッラーの獅子）、サイイドゥ・アッ＝シュハダー（殉教者たちの長）で、クンヤはアブー・ウマーラです。

4. ハムザが弓でアブー・ジャフルを打った話は真正ですか？

スィーラの書（イブン・イスハーク）では有名な話ですが、伝承経路は完全にはつながっていません。真正なハディースとしてではなく、一般的な歴史として受け入れられています（第3章）。

5. ハムザは酒を飲んだことがありますか？

はい、酒が禁じられる前に。アリーのラクダの話にあるとおりです（『サヒーフ・ブハーリー』3091）。まだ禁じられていなかったことに罪はありません。ウフドの朝に酒を飲み、その後殉教した教友たちと同じです（『サヒーフ・ブハーリー』4618）。

6. ハムザを殺したのは誰ですか？

ジュバイル・ブン・ムトイムの奴隷ワフシー・ブン・ハルブが、隠れた所から投げた槍によって殺しました。ワフシーはのちに入信しました（『サヒーフ・ブハーリー』4072）。

7. ヒンドがハムザの肝臓をかんだというのは本当ですか？

肝臓をかんだという伝承は弱いものです。真正なのは、ハムザを含む殉教者たちの遺体が損壊されたということです（第 10 章）。

8. アッラーの使徒ﷺはハムザのために葬儀の礼拝をされましたか？

伝承が分かれています。ジャービルはウフドの殉教者たちには礼拝が行われなかったと言い（『サヒーフ・ブハーリー』1343）、イブン・アッバースは預言者 ﷺ がハムザと共に彼らのために礼拝されたと言います（『スナン・イブン・マージャ』1513）。学者たちはその調和について意見が分かれています（第 11 章）。

9. なぜアッラーの使徒ﷺはワフシーに顔を隠すよう頼まれたのですか？

彼を見ると叔父を思い出されたからです。それは人間の自然な心情であり、ワフシーの入信を拒まれたのではありません。

10. 「殉教者たちの長はハムザである」というハディースは真正ですか？

アルバーニーが『スィルスィラ・サヒーハ』（第 374 番）でハサン（良好）としており、ハーキムとタバラーニーが伝えています。

11. ハムザの墓はどこにありますか？

マディーナの北、弓兵の丘の近く、ウフド山の麓にあるウフド殉教者墓地にあります。スィーラの伝承によれば、アブドゥッラー・ブン・ジャフシュと共に葬られました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

12. ハムザの生涯から得られる最大の教訓は何ですか？

信仰は個人の力を真理のための力に変えること、そしてアッラーとの約束を守ることこそが英雄の本当の尺度であるということです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブ رضى الله عنه の物語は、マッカの力強い狩人から始まり、ウフドで足りない布に包まれた殉教者で終わりました。その二つの点の間には、歴史を変えた 9 年間のイスラームの生涯がありました。

教訓	ハムザの物語から
信仰は力を変える	イスラーム以前のハムザの力は、真理を守ることに向けられた
規律ある勇気	バドルとウフドでは勇敢、サイフ・アル＝バフルでは和平を受け入れた
歴史への誠実さ	アリーのラクダの話とヒンドの話の位置づけを正直に説明した
悲しみと忍耐	アッラーの使徒 ﷺ は涙を流されたが、忍耐と赦しを選ばれた
悔い改めの扉は開いている	ワフシーとヒンドの入信は受け入れられた
約束を果たす	ハムザはウフドで「その誓いを果たした」（33:23）

私たちの生活の中のハムザ

私たちの誰もがバドルやウフドの戦場に立つわけではありません。それでも誰もが人生の中で「アブー・ジャフル」に出会います。不正や中傷や虚偽が、立ち上がって「私は彼の宗教に従う」と言う人を必要としているのです。ハムザは、真理を守るには勇気が必要であり、その勇気は信仰と規律と結びついたとき高貴になることを教えてくれます。

彼の物語はまた、人を永遠に断罪してはならないことも教えています。ハムザを殺した者と、彼を最も憎んだ女性は、ついに二人ともアッラーの使徒 ﷺ の教友となりました。アッラーの慈悲の扉は、人間の憎しみよりも広いのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アッラーが望まれるならば、『イスラームの英雄』シリーズは次の人物へと続きます。アッラーが殉教者たちの長ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブにご満悦され、私たちを彼らと共に楽園に集めてくださいますように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

参考文献

クルアーンと解釈

聖クルアーン、ウスマーン版の本文と三田了一訳。https://quran.com

イブン・カスィール『偉大なるクルアーンの解釈（タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム）』（巡礼章 22:19；イムラーン家章 3:140、169–170；蜜蜂章 16:126–127；部族連合章 33:23；集団章 39:53）。

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』1343、2699、2805、3091、3493、3684、3825、3969、4003、4042、4043、4072、4251、4618、5100。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』121、975。https://sunnah.com/muslim

『スナン・アビー・ダーウード』2520、2665、3136。https://sunnah.com/abudawud

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』1016、3129。https://sunnah.com/tirmidhi

『スナン・イブン・マージャ』1513、1591。https://sunnah.com/ibnmajah

『ムスナド・アフマド』1418、4414。

ハーキム『アル＝ムスタドラク』；アルバーニー『スィルスィラ・サヒーハ』第 374 番。

スィーラと伝記の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』（イブン・イスハークからの伝承）。

イブン・サアド『大列伝（アッ＝タバカート・アル＝クブラー）』（ハムザの伝記と遠征の章）。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『アル＝イサーバ』；『ファトフ・アル＝バーリー』。

イブン・アブドゥルバッル『アル＝イスティーアーブ』。

サフィーウッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された蜜（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』。

Wikipedia「Hamza ibn Abd al-Muttalib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hamza_ibn_Abd_al-Muttalib

QURANSCIENCE.MY の関連シリーズ

『預言者伝（スィーラ）』第 9 巻（バドルの戦い）と第 10 巻（ウフドの戦い）。
https://quranscience.my/#sirah

支援と寄付

この電子書籍はムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売してはなりません**。研究費、ウェブサイト quranscience.my の運営費、そして次の電子書籍の発行のためのご寄付を心から歓迎します – ただし、**義務ではありません**。アッラーがすべてのご寄付を継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど 1 粒が 7 穂を付け、1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。『本当にわたしの主は、そのしもべの中から御心に適う者に、御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。』

訳：三田了一 — quran.com/34:39

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。人を赦すしもべに、アッラーは尊厳しか増し加えない。アッラーのためにへりくだる者を、アッラーは必ず高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・作法の書、赦しと謙虚さを勧めることの章、ハディース第 2588 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2588

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは三つを除いて途絶える。継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドッラフマーン ← 父 アブドッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書、死後に人に届く報奨の章、ハディース第 1631 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1631

ジャザークムッラーフ・ハイラン・カスィーラ（多大なる善い報いがありますように）



上の QR コード（DuitNow）を読み取って寄付できます。

寄付する

海外からのご寄付：寄付するボタンをクリックするか、こちらへ paypal.me/quranscience

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |